

生きがいと誇りを持ち  
豊かな心を育むまち

### 3) 教育・文化分野

高校生の通学費等に対する助成	1,384万円
道徳教科化に伴う指導書の購入	96万円
高地トレーニング強化拠点施設活用事業	2,409万円
飛騨高山まちの体験交流館管理事業	1,750万円



**問** 道徳教科化に伴う指導書の購入について、道徳の評価は数値化されないとのことであるが、どのように評価するのか。

**答** 長い期間で子どもたちの変化を見届けていき、その様子を保護者や本人が知ることで成長を実感していくことが道徳の大事な評価になる。

### 4) 福祉・保健分野



子育て住環境整備事業補助金	1,950万円
医療確保等支援事業	1億5,881万円
介護人材確保事業（介護ロボット）	57万円
健康ポイント事業	120万円

**問** 健康ポイント事業における市民の参加者数の見込みは正しかったのか。見込みに対し参加者が少なかった原因をどう分析しているか。

**答** 参加者を4,000人と見込んで積算していたが、実績は1,779人と低調であった。事業を市民に周知する方法が十分でなかったと分析している。

やさしさにつつまれ  
健やかに暮らせるまち

安全で安心して  
快適に住めるまち

### 5) 基盤・安全分野

<b>新規</b> 都市基本計画の策定（基礎調査）	2,311万円
下水道事業地方公営企業移行事業	5,859万円
ハザードマップ更新	1,704万円
ライフライン保全対策事業	4,518万円

**問** 避難勧告と避難指示の区別がわからない、避難勧告が発令されたが、どこが避難区域かわからない等、情報が正確に伝わっていない。非常時に情報が正確、確実、迅速に受発信できる取り組みの検討が必要では。

**答** ハザードマップを作成する上では地域の声を避難経路の図示などに反映した。また、昨年の災害発生時には、防災ラジオ・安心安全メール・ツイッター・LINEなど複数手段を用い高齢者の方から若者にも情報が伝達できるよう取り組んでいる。



ハザードマップ